

小 学 校

令和5年度

教育研究員研究報告書

図画工作

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
1	「表現」における児童の思い	1
2	思いの実現を繰り返すための授業づくりの四つの視点	2
III	研究仮説	3
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	4
1	研究構想図	4
2	実態調査	4
3	児童の思いの実現を支援する手だて表	6
4	検証授業①	6
5	検証授業②	10
6	検証授業の成果	14
VI	研究の成果と課題	15
1	成果	15
2	課題	16

研究主題

自分らしくつくる喜びを味わう児童の育成 ～児童が思いの実現を繰り返す授業づくり～

I 研究主題設定の理由

「小学校学習指導要領解説総則編」の第1章の1では、急激な社会や技術の変化について述べられ、その変化の一つとして人工知能（AI）の飛躍的な進化が挙げられている。この人工知能の進化は、子供たちが学校で獲得する知識の意味に変化をもたらすことが指摘されている。一方で、人工知能がどれだけ進化し思考できるようになったとしても、その思考の目的を与えたり、目的のよさ・正しさ・美しさを判断したりできるのは、人間ならではの強みである。そして、これからの学校教育には、児童が様々な変化に積極的に向き合い、変化の中で目的を再構築しながら学習に取り組む姿が求められている。

このような背景を基に、「小学校学習指導要領」（平成29年7月告示）（以下、「学習指導要領」と表記。）第2章の第7節の第1には、図画工作の目標として、「つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。」と示されている。この目標の実現の過程で、児童は、自分の思いを実現するために、造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を発揮して、つくったりつくりかえたりする活動を通して自分らしく活動をやり切ろうとする姿が期待される。つまり、児童が、図画工作科の目標を達成していく上で、納得するまでつくったり、活動の終わりを自分で決めたりするなどの自分らしくやり切る学びの過程の繰り返し、その過程の中で自分らしくつくる喜びを味わう経験を積み重ねることが極めて重要であると考えられる。

このような児童像の実現に向けて、教師には、「学習指導要領」第2章の第7節の第3に示されているように、「各学年の『A表現』の指導に当たっては、活動の全過程を通して児童が実現したい思いを大切にしながら活動できるようにし、自分のよさや可能性を見だし、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにすること。」が重要である。

つまり、教師が、児童の思いを把握したり想定したりして、児童が思いを実現できるように題材指導計画を立案し、指導及び支援を行うことが必要である。そこで、本研究では、このような児童の思いを実現する授業づくりの視点を明らかにし、その視点を基に指導計画を立て、具体的な実践で検証する。これにより、児童が材料や用具などを試して発想・構想する姿や、友達や教師との関わりによってつくり、つくりかえ、つくる姿など、児童が思いの実現を繰り返しながら自分らしくつくる喜びを味わう姿を育成できると考える。

II 研究の視点

本研究では、児童が思いの実現を繰り返しながら自分らしくつくる喜びを味わう授業づくりに向けて、以下の2点を研究の視点として設定した。

- 「表現」における児童の思い
- 思いの実現を繰り返すための授業づくりの四つの視点

1 「表現」における児童の思い

児童は、学習の中でねらいに即した多様な思いをもつ。「小学校学習指導要領解説図画工作編」（以下、「学習指導要領解説」と表記。）第4章には、以下の表1のように児童が多様な思いをもつことが想定されている。

表1 「表現」における児童の思いの分類

児童の思いの分類	児童の思いの具体例
発想や構想に関する思い	「大きなものをつくりたい」、「ここを赤くしたい」、「木でつくってみたい」等
技能に関する思い	「のこぎりを使ってつくりたい」、「ここを濃く塗りたい」等
「学びに向かう力、人間性等」に関わる思い	「みんなでつくりたい」、「もっとつくりたい」、「楽しくてたまらない」等

学習指導要領解説 第4章「児童の思いを大切にした指導」を基に作成

教師は、児童のこのような思いを受け止めながら、児童自らが思いを実現できるように、指導計画を工夫する必要がある。

児童がねらいに即した思いをもつためには、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（中央教育審議会 令和3年1月26日）（以下、「答申」と表記。）において、「（前略）子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、（中略）教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する『学習の個性化』も必要である。」と示されているように、教師の指導及び支援によって、児童が自分の課題や目標をもつことが重要である。図画工作科においては、自分の感性や経験などの学習の基盤となる資質・能力を土台として、児童一人一人が多様な思いをもち、個別の学びが生まれる。そして、教師には、児童一人一人の思いに応えるために、指導方法・教材等を柔軟に提供したり設定したりすることが必要である。

2 思いの実現を繰り返すための授業づくりの四つの視点

図画工作科の学習過程の中で、児童は、自分らしく活動をやり切ることによって、更に実現したい思いをもつ場面が多数あると考える。例えば、児童が、自分の作品が完成したと感じたとき、ふと隣で活動する友達の活動を見ると、「そうか、あんな風にすればもっとよくなりそうだ」と思ったり、材料置き場へ行くとき、「あの材料面白そう。使ってみようかな」と考えたり、教師に「できた」と伝えにいき、「できたけれど、もっとここを〇〇したかった」と言ったりするときなどである。このように、児童が活動をやり切った場面において他の人、もの、ことなどからの見方を取り入れ更に実現したい思いを新たにすると考えられる。このような視点を踏まえ、児童の思いを実現するための指導及び支援について、以下のとおり学習指導要領解説及び答申の研究並びに事前授業の実施を通して検討した。

(1) 思いの実現を繰り返すための授業

「学習指導要領解説」第2章及び内容第1節1には、教科の目標として、「感性を働かせ

ながら作品などをつくったり見たりすることそのものが、児童にとって喜びであり、楽しみである(後略)」とあり、児童が思いを実現することが、つくりだす喜びであると同時に、更に新しいものをつくりだす意欲につながることを示されている。さらに、「学習指導要領解説」の同部分には、「友人や身近な社会との関わりによって、一層満足できるものになる」と他との関わり的重要性も示されている。また、「答申」でも同様に、『協働的な学び』において、同じ空間で時間を共にすることで、お互いの感性や考え方等に触れ刺激し合うことの重要性について改めて認識する必要がある。」と示されている。以上のことから、本研究では、児童が思いの実現を繰り返すためには、自分の活動をやり切るだけでなく、友達や教師、学習環境の設定等との関わりも重要であると考えた。

(2) 事前授業の実施

児童が思いの実現を繰り返すための授業づくりについて明らかにするために、事前授業を行った。題材に合わせて教師が計画した手だてと、児童が材料・用具を試して発想したり、他者と関わり合いながら自分らしく活動したりする姿などを記録・分析し、教師の指導及び支援と児童が思いの実現を繰り返す姿との関連を考察した。この事前授業から、児童が思いの実現を繰り返すためには、これまで教師が行ってきた授業づくりの視点を改めて言語化、焦点化することが必要であると考えた。さらに、具体的な授業づくりの手だてについて、以下のとおり四つの視点に分類して整理した。

(3) 授業づくりの四つの視点

- A 材料・用具、場の設定
- B 学習過程の工夫
- C 教師の働き掛け
- D 児童同士の交流

III 研究仮説

「授業づくりの四つの視点」の指導及び支援によって、児童は自分の思いの実現を繰り返しながら、自分らしく活動をやり切ることができるだろう。

IV 研究の方法

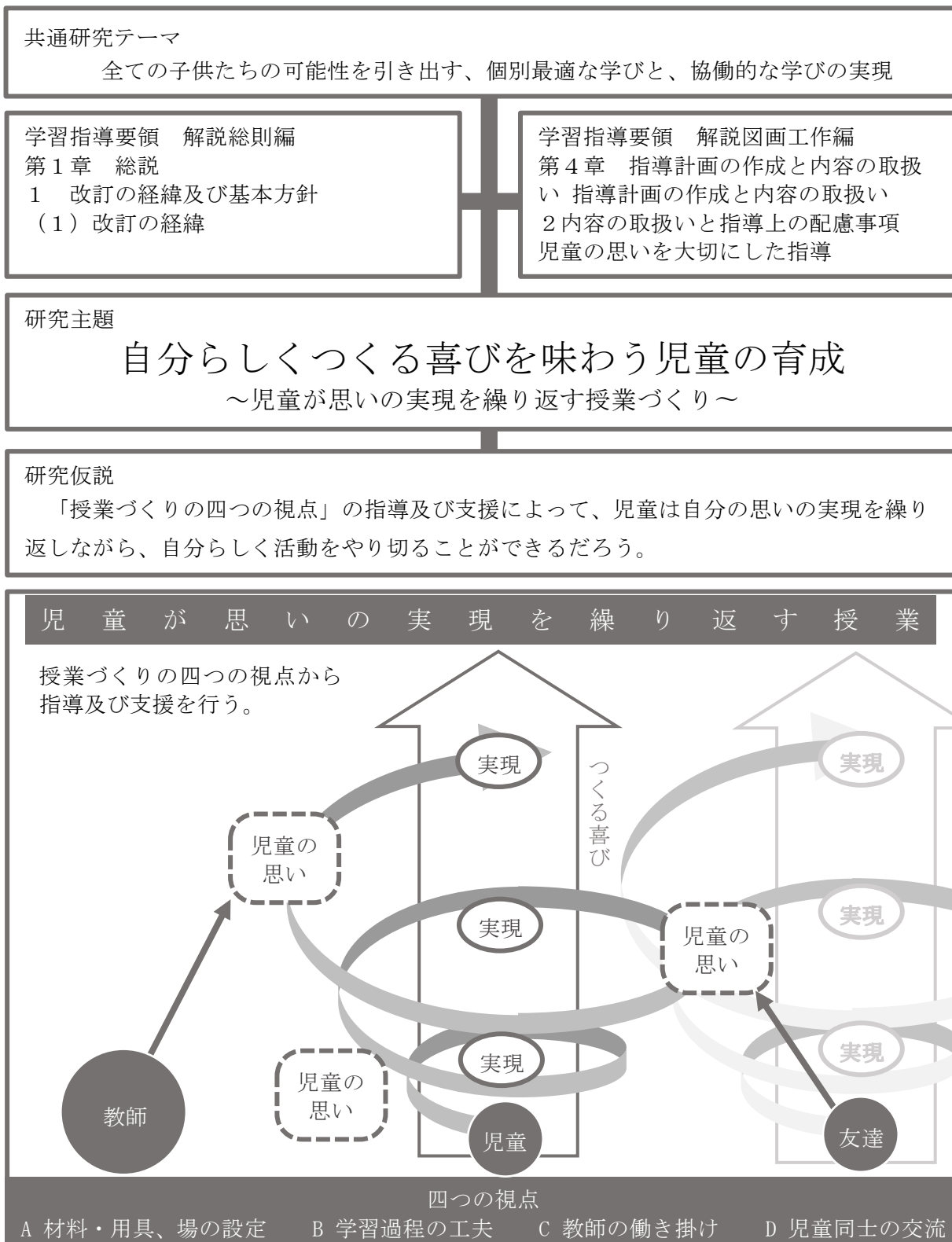
以下の1から5の手順を踏まえて、検証授業を2回実施し、仮説を検証した。

- 1 事前授業による授業づくりの視点の明確化
- 2 実態調査による授業づくりの視点の妥当性の分析
- 3 授業づくりの四つの視点を基に「児童の思いの実現を支援する手だて表」(以下、「手だて表」と表記。)の作成
- 4 「手だて表」に基づいた指導及び支援を設定した指導計画の作成
- 5 検証授業における手だての検証

学級から3人程度の児童を抽出して、児童が思いを実現している姿と教師が選択した指導及び支援にどのような関わりがあるかを分析する。

V 研究の内容

1 研究構想図



2 実態調査

- (1) 対象 教育研究員が所属する小学校に在籍する児童 約1,200名
- (2) 方法 質問紙法 (Web アンケート)

(3) アンケート設問の内容

児童の思いの実現する手だてや場面を、児童自身がどのように認識しているかを把握するために、「図画工作の授業で表したいものや表したいことを『更につくりたい』と思うのはどのようなときですか。」と問いを設定した。そして、事前授業で観察された児童の姿を参考に、授業づくりの四つの視点を基に想定した17の具体的な手だてや場面について、それぞれについて、「更につくりたい」と思うかどうかを4件法で尋ねた。

表2 授業づくりの四つの視点を基に整理した児童が思いを実現するための手だてや場面

視点	設問	肯定的回答の割合 (%)
A 材料・用具、場の設定	1 材料や用具がたくさんあるとき	92
	2 材料や用具の使い方が分かったり、できることがふえたりするとき	93
	3 材料や用具が自由に選べるとき	96
	4 材料や用具の準備・片付けがしやすいとき	82
C 教師の働き掛け	5 先生の話がわかりやすいとき	90
	6 先生が新しいことを教えてくれるとき	93
	7 先生がいっしょに考えてくれるとき	88
	8 先生が認めてくれるとき	91
D 児童同士の交流	9 友達のつくっているところを見たとき	87
	10 友達とそうだしながらつくるとき	90
	11 自分がつくっているものについて発表するとき	67
	12 友達が認めてくれるとき	89
B 学習過程の工夫	13 ためしたりつくったりする時間がたくさんあるとき	95
	14 前にやったことを生かせるとき	89
	15 自分で計画できるとき	88
	16 デジタル機器を学習で使うとき	77
	17 表し方を自分で決められるとき	89

(4) 結果

- 設問 11、16 を除く全ての回答において、肯定的回答の割合が8割以上であった。
- 設問 3、設問 13 の順に肯定的回答が多かった。
- 設問 11、設問 16 の順に否定的回答が多かった。
- 全ての設問で肯定的回答が否定的回答を上回った。

(5) 考察

- 設問 3、13 の肯定的回答が特に多いことから、「材料や用具が自由に選べること」、「試したりつくったりする時間を設けること」は、児童の主体性を高める手だてとして多くの場合、有効であると考えられる。
- 設問 11、16 では、肯定的回答が過半数あるものの、否定的回答を示す児童も3分の1程度いることから、「作品の発表」や「学習にデジタル機器を用いる」ことを手だてとして導入する場合は、児童の実態を考慮しながら部分的に導入するなどの工夫が必要と考えられる。
- 授業づくりの四つの視点 ABCD について、平均してみると対象児童の8割以上が肯定的回答を示した。このことから、四つの視点に基づいて教師が授業改善の手だてを講じることは、児童が「更につくりたい」と思う上で効果的であると考えられる。

3 児童の思いの実現を支援する手だて表

「手だて表」から題材のねらいに合わせて具体的な手だてを抽出し、検証授業における指導計画の作成に生かした。

表3 児童の思いの実現を支援する手だて表

視点	手だて	題材ごとの授業改善の確認項目	
A 材料・用具、場の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・思いに合わせて選択できる材料・用具の設定 ・材料・用具の既習事項の確認と安全指導 ・題材に応じた空間、配置の設定 	①量(数) ②種類 ③大きさ ④提示方法 ⑤手渡し方 ⑥安全指導	⑦既習事項の確認 ⑧配置 ⑨活動空間づくり ⑩見本やヒント等の提示 ⑪準備・片付け方の工夫
B 学習過程の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の工夫 ・試行錯誤する場面の設定 ・表したいことに合わせて表す場面の工夫 ・鑑賞の場面の工夫 ・まとめの工夫 	①めあて、活動内容の理解 ②時間の見通しをもつ ③材料・用具、場との出会い方の工夫 ④十分な試す時間・場の設定	⑤つくり、つくりかえ、つくる過程の工夫 ⑥どのように表すか考える、表す過程の工夫 ⑦見合う機会の工夫 ⑧活動の振り返りの工夫 ⑨次時への見通しをもつ
C 教師の働き掛け	<ul style="list-style-type: none"> ・授業展開や児童一人一人の様子、実態に応じた言葉、行為、提案等の働き掛けの工夫 	児童の実態、場面に応じた働き掛けを行う。 ①認める ②共有する ③共感する ④提案する ⑤見守る	⑥支援する ⑦提示する ⑧演示する ⑨一緒に活動する
D 児童同士の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・交流を通して自分の見方や感じ方を広げたり、深めたりする場や方法の工夫 	学習過程全体を通して、児童同士が交流できるようにする。 ①見合う機会、場の設定 ②交流・対話を生む動線、座席配置	③児童の思いや表したいことに合わせて交流できる環境の設定

※ 網掛けは、児童が造形的な視点に着目し、思いを実現する関わり合いが生まれることを期待した手だて

4 検証授業①

(1) 学年 第2学年

題材名 「すけるんたんじょう」 (ずがこうさく1・2下「みつけたよ」開隆堂)

A表現(1)イ(2)イ B鑑賞(1)[共通事項](1)ア、イ

(2) 題材の目標

透明な材料が重なったり組み合わせたりしたときにできる形や色の面白さに気づき、

様々な形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考え、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。

(3) 題材の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 透明な材料が重なったり組み合わさったりしたときにできる形や色の面白さに気付いている。</p> <p>② 透明ファイルを立体にする操作に十分慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表している。</p>	<p>① 透明なファイルを扱ってできた形を基に、自分のイメージをもち、想像したことから表したいことを見付け、様々な形や色を考えたりしながらどのように表すかについて考えている。</p>	<p>① つくりだす喜びを味わい、透明なファイルの特徴を生かしながらすすんで「すけるん」を表す活動に取り組もうとしている。</p>

(4) 指導観

本題材は、透明なファイルの透過性と、「切る」「丸める」「ひねる」「折る」といったことにより平面を立体化させる過程で発生する形の変化を通して、表したいものを工夫して表す力を身に付ける題材である。導入では、材料として初めて出会う透明ファイルの面白さに気付かせ、自分のつくりたいものに向き合えるようにした。更に、自分や友達の一つづつ見せているものを見せ合ったり、材料を選び直したりしながら、表したいことを少しずつ明確にしていくことができるようにした。

(5) 研究主題に迫るための手だて

ア **A 材料・用具、場の設定**

透明ファイルの硬さや透明感などの魅力を共有するために、児童を教師の周りに集め、見たり話したりすることを通して関心を高めた。ファイルを切ったり捻ったりするところを見せ、児童の「自分も切ってみたい」「曲げてみたい」という思いの高まりを促した。

イ **B 学習過程の工夫**

透明ファイルの硬さを伴う質感に慣れ、様々な形や色について考えながら試すための十分な時間を設けることで、つくりだす喜びを味わうことができるようにした。

ウ **C 教師の働き掛け**

第1、2時までは、思うようにできない児童や、手が止まっている児童には、何が困ったのか、どうしたいのかなどを聞き、寄り添いながら一緒に取り組んだ。自分で工夫して用具を使うことができるようになったり、自分で考えようとしたりする様子が見えたときは、その姿を認めたり、場合によってはその様子を見守ったりするようにした。主体的に表し方を工夫している姿は、記録に取り、他の児童に紹介し、児童同士の教え合いに発展できるよう促した。形や色の面白さに気付き、用具の扱いに慣れた状態で様々な形や色を考えながら、どのように表すかについて考えられるような指導を行った。

エ **D 児童同士の交流**

学習が進むにつれて、制作中に自由に相互鑑賞できるような学習環境を設定した。児童が主に技能を働かせているときには、友達から得た表し方の工夫を技能に生かすことができ、発想や構想しているときには新たな発想や構想につながるようにした。学習の終わり

の段階では、児童同士が活動しながら自然に鑑賞できるような学習環境を整えることにより、児童が、友達の作品を鑑賞したり、自分の作品を見直したりして自分の活動の終わりを自分で決め、納得するまでつくり出すことができるようにした。


(6) 指導の記録

児童	・学習活動	教師
●思いを実現している姿	◎指導に生かす評価 ★記録に残す評価	○具体的な手だて
第1時 とうめいファイルをつかって、いろいろなことをやってみよう。		
目標 透明な材料の重なり組み合わせによりできる形や色の面白さに気付く。		
<p>「私も友達がやっているようにファイルを切ってみよう。」</p> <p>●友達の様子を見て活動した。</p> <p>「ファイルが重なっていた。重ねて切ったら2枚になった。」</p> <p>「みんな、ステープラーを使っているな。私も使いたい。」</p> <p>●その場にある用具を使ってみようという思いから活動していた。</p> <p>「羽をもっと大きくしよう。」</p> <p>●ステープラーの使い方のコツをつかみ、つくりたい形が表せるようになった。</p> <p>●立ち上がる形ができた。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 出会う </div> <ul style="list-style-type: none"> ・透明ファイルの特徴をつかむ。 ・透明なファイル同士を切ったり立体にしたりしながら組み合わせる。 ・自分がやりたいことを試す。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 試す </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; background-color: #e0e0e0;"> ◎ア - ① (観察・作品) </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○児童を教師の周りに集め、見たり話したりすることを通して関心を高める。【C】 ○ファイルを切ることや曲げることを教師が少しだけやって見せる。【A】【C】 ○材料となる透明ファイルを一人一枚渡す。【A】 ○児童が試していることを大型モニターに映す。【A】【B】 ○ステープラーや材料の扱いに困っている児童に材料・用具の特徴を伝え、工夫への意欲を持続させる。【B】【C】
第2時 すけるんをつくろう。		
目標 透明なファイルを扱ってできた形を基に、どのように表すかについて考える。		
<p>「よく分からない形だから、別の形を組み合わせよう。」</p> <p>「生き物の形を調べてみよう。」</p> <p>●小さい円筒形は横に置き、別の円筒形をつくり始めた。</p> <p>●面白い工夫を探しに、鑑賞をして回っていた。</p> <p>「動くものは面白いな。つくったものをつけて羽にしてみよう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大型モニターで前回までの友達の作品を鑑賞する。 ・材料の場所の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前の時間に試していることを大型モニターに映す。【C】 ○友達との関わり合いで、自分と友達の見方・感じ方との違いに触れることができるようにさせる。【D】 ○透明ファイルや、ステープラーの扱いについては、十分に試せるよう、引き続き試す時間を設けながら、活動を続

<ul style="list-style-type: none"> ●近くの友達や教師に自分のやっていることを見せた。 ●羽を羽ばたかすことができた。「飛びそうな形になってきた。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でつくった形を様々な方向から見たり、組み合わせを試したりする。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; text-align: center; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">広げる</div> <div style="background-color: #cccccc; text-align: center; padding: 5px; margin-top: 10px;">★イ - ① (観察・作品・対話)</div>	<p>けられるようにする。【B】</p>
---	--	----------------------



第3時 すけるんをつくろう。(本時)

目標 透明なファイルに十分慣れ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。

<p>「新しいものがつくりたいなあ。」 「余った材料でできるかな。」</p>  <p>「この前、飛んでいる鳥ができたから、今日はどうしようかな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●羽が動く様子が好きなことを友達に伝えた。 ●遠くの席の友達にも作品を見せに行った。 ●友達の作品や制作の様子を見に行き、またつくり始めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型モニターで前回までの友達の作品を鑑賞する。 ・透明ファイルで、自分のイメージした「すけるん」を工夫してつくる ・自分の作品を鑑賞する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; text-align: center; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">深める</div> <div style="background-color: #cccccc; text-align: center; padding: 5px; margin-top: 10px;">★ア - ② (作品・対話・観察)</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の活動や作品を見合いながら自分の見方・感じ方を広げたり活動に生かしたりするよう声を掛ける。【C】【D】 ○児童の発想・構想を認め、児童の思いに合わせた材料を用意できるように配慮する。【A】 ○児童の活動が停滞しても、児童なりに考えている可能性があるので、児童への声掛けについてはタイミングに十分に気を付ける。【C】 ○様々なことを試し、どれも自分の思いと違うと感じたときに友達の作品に目を向け、新しい見方・感じ方に気付けるよう配慮する。【B】【D】
--	--	--

第4時 すけるんをかんしょうしよう。

目標 自分らしいすけるんをつくる学習活動に取り組もうとしている。

<ul style="list-style-type: none"> ●すけるんの見せ方や置き方を考えていた。 ●新しい材料を集めていた。 「新しいものにしようかな、続きをつくろうかな。」 ●新しく色を塗り始めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すけるん鑑賞会を行うことを知り、作品の仕上げのために必要なことを考える。 ・鑑賞会を行う。 ・自分や友達の仕事のいいところ、もっとすてきになりそうなどところを探す。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 150px;">振り返る</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○イメージに近付けるために、補助的な材料なども組み合わせながら工夫する。【A】【B】 ○友達と紹介し合うだけでなく、遊んだりすることを通して試したりつくりかえたりすることが繰り返されるようにする。【D】 ○自分がつくりたかった「すけるん」の形や色のすてきなところを作品カードに書く。【B】
<ul style="list-style-type: none"> ●友達の仕事鑑賞しに行った。 ●最終的に、この色で塗ったものはいろいろ試した上で自分の仕事には使わなかった。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 400px;">★ウ - ① (作品カード・鑑賞の様子)</div>	

5 検証授業②

(1) 学年 第5学年

題材名 「感じて⇄考えて」(ずがこうさく5・6下 日本文教出版)

A表現(1)イ(2)イ B鑑賞(1)〔共通事項〕(1)ア、イ

(2) 題材の目標

材料に触れて感じたことから表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさの感じなどを考えながら、どのように主題を表すかについて考え、今までの経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法を組み合わせたりするなどして、表し方を工夫して表しながらつくりだす喜びを味わう。

(3) 題材の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①手と心を働かせて、いろいろな材料を使って表すときの感覚や行為を通して、動き、奥行き、バランス、材料	①動き、奥行き、バランス、材料感の違い、色の鮮やかさを基に自分のイメージをもちながら、材料に触れ	①つくりだす喜びを味わい、主体的に手と心を働かせて、いろいろな材料を使って表す

<p>感の違い、色の鮮やかさなどを理解している。</p> <p>②表現方法に応じて身近材や水彩絵の具を活用するとともに、前学年までの材料や用具についての経験や技術を総合的に生かしたり、表現に適した方法を組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。</p>	<p>て感じたことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさの感じなどを考えながら、どのように主題を表すかについて考えている。</p> <p>②自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。</p>	<p>学習活動に取り組みようとしている。</p>
--	--	--------------------------

(4) 指導観

本題材は、材料を扱うことで変化した画面から更に感じたことを基に表したいことを深め、自分のイメージを手を動かしながら具体化する力を育てる題材である。

あらゆる材料が使用できる内容であるため、手だて表を用いながら、時間、児童の実態、既習事項、授業のねらい等を検討し、児童が材料の特性を理解しながら考え、選び取れるようにした。また、友達との会話や作品鑑賞から気付きを生む空間を意識的につくり、協働的な学びにもつながることを目指した。

(5) 研究主題に迫る手だて

ア **A 材料・用具、場の設定**

児童が自分の思いに応じて活動しやすい動線を考慮し、材料・用具の置き場を設定したり、児童同士が互いの表現方法や材料・用具の使い方を自然に取り入れようとしてきたりする学習環境を設定した。

イ **B 学習過程の工夫**

児童が試す時間を十分にとり、材料や用具を自由に扱いその特性を理解しながら、自己の興味に応じて小さめの材料をいくつも使えるようにした。その中で気に入ったものは次週からの作品にも利用できるようにしたり、初めに試した経験が、第三時以降の時間に生かされたりするようにした。


ウ **C 教師の働き掛け**

教師は机間指導を行いながら、困っている児童に助言したり、児童の作業を言語化し記録写真を撮りながら価値付けをしたりするなど、児童の様子に応じた個別の働き掛けをすることにより、児童が表し方を工夫できる環境を作った。

エ **D 児童同士の交流**

試す時間を通してできた様々な試作品や、第5時の前までに仕上がった作品について鑑賞し、話しながら互いに見合う時間を設けることで、児童がどのように主題を表すかについてより考えられるように促した。

(6) 指導の記録

児童	・学習活動	教師
●思いを実現している姿	◎指導に生かす評価 ★記録に残す評価	○具体的な手だて
<p>第1～2時 いろいろな材料や用具でどのようなことができるか試してみよう。 目標 材料に触れ、画面の上で試しながら感じ考えて表すことを知る。</p>		
<p>●材料を手を取ったりやめたりしながら何をするか考えていた。</p> <p>●材料を混ぜたり重ねたり貼り付けたりと、次々と試していた。</p> <p>●友達や教師に自分の試していることを話して表現方法を確認めたり、友達の作品のやり方を聞いて自分の作品に取り入れたりした。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 出会う・試す </div> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な材料を触って混ぜたり、材料に貼り付けたりして、どのような様子になるのかを知る。 ・材料に触れたり試したりしながら、自分がよいと感じる形や色を見付けながら表す。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> ◎ウー1(観察・対話・作品) </div>	<div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○基底材や素材を手に取りやすいサイズにして置き、児童が試しやすいようにする。【A】 ○素材や道具の扱い方に困っている児童に声を掛け、具体的な方法を示す。【C】 ○できた作品を乾かす場所を作り相互鑑賞を促す。【D】
<p>第3～4時 いろいろな「いい感じ」を生かして、表したいことを見つけて表そう。 目標 表現方法に応じて身近材を活用するとともに、前学年までの材料・用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法を組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。</p>		
<p>●前回の試作品の中からはいいなど思ったものを、新しい材料に貼り付けていた。</p> <p>●友達がやっていた方法をまねしてやってみていた。</p> <p>●自然の材料が欲しくなり、校庭から木の実や枝等を拾ってきて作品に使った。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 広げる </div> <ul style="list-style-type: none"> ・前回試した作品を鑑賞し合う。 ・材料に触れたり形を変えたりする中でよいと感じたものを材料の上に貼ったり並べたりする。 ・できてくる形や色を 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の試作品を見えるように並べ、そこから取ってくるような場を設定する。【A】 ○前時は試しの時間であったが、本時からは平面作品にしていく目標を児童にしっかり提示する。【B】 ○材料置き場を一ヶ所にし、そこで児童同士の交流や、動線

<p>●材料の形を変えたり、小さな作品を組み合わせて構成したりした。</p>	<p>生かしながら次の表現を考える。</p>	<p>による相互交流の機会をつくる。【A】 【D】</p> <p>○白板段ボールは、一人ずつに配布したもの以外にも小さめに切断したものを用意し、少しずつ試しながら作り上げる方法も可能にする。【A】</p> <p>○児童が思いを表すために、必要と思われる材料・用具を出せるようにしておく。【A】</p>
<p>★ア-2 (観察・対話・作品)</p>		

第5時 いろいろな「いい感じ」を生かして、自分が満足する作品に仕上げよう。

目標 材料に触れて感じたことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさの感じなどを考えながら、どのように主題を表すかについて考える。

<p>●お気に入りの材料を更に使ったり、技法を試したりした。</p> <p>●必要ないと思ったパーツをはがして、他のものに変えた。</p> <p>●ほとんど終わったと言っていたが、友達作品を見て回っているうちに新しい方法を知って、自分の作品にも加えてみた。</p>	<div data-bbox="689 958 938 1048" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>深める</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・大型モニターや実物で前回までの友達の作品を鑑賞する。 ・気に入ったものを並べながら、足りないと感じた色や形を更に追加したり、違うと思ったものをはがしたりする。 ・様々な表現を一つの作品として完成させる。 ・できあがった児童は、自分の作品をタブレットで撮影する。 	<p>○友達の活動や作品を見合い、自分の見方・感じ方を広げたり、自分の作品を客観視したりできる時間を設ける。【A】 【D】</p> <p>○これまでの活動をモニターで見合い、どのような工夫があるかを見ながら、作品づくりに大切な要素をいくつかのポイントに分けて児童に提示する。【B】 【C】</p> <p>○自分でやりきることができるように、完成したかどうかは児童に決定させる。【C】</p> <p>○自分の作品を撮影することで作品を客観視し、価値付けし、次時の題名を考える時間に繋げる。【B】</p>
<p>★イ-1 (観察・対話・作品)</p>		



●完成した自分の作品を撮影して記録し、どのような題名にしようか考え始める。

第6時 題名を付けて、友達作品をじっくりと味わおう。

目標 自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。

- 自分の作品からイメージを膨らませて題名を考えた。
- 友達作品を鑑賞し、材料の組み合わせや技法についてなど、具体的に感想を書き、発表し合った。
- 自分の学習を振り返り、どのような部分で自分のいい感じを表現できたかを文章で表現した。



- 友達の書き込みを読んで、新しい考え方を知ったり、友達の意図を理解したりした。

振り返る

- ・自分の作品に題名を付ける。
- ・友達と作品を見合いながら、表現の意図や工夫について話し合ったり、発表し合ったりする。
- ・デジタル機器を活用して毎授業後の記録をまとめる。

○いろいろな角度から作品を見て、自由にイメージして題名を考えられるよう声掛けする。

【C】

○「材料」「組み合わせ」「技法」等、鑑賞のポイントを示して、具体的な鑑賞コメントを書けるように促す。【B】【C】



★イー2 (題名カード・振り返り記録・鑑賞の様子)

6 検証授業の成果

(1) A 材料・用具、場の設定

教師が材料の扱い方を実際に見せることで、児童がすぐに材料を使って試す様子が見られた。材料置き場の配置による児童の動線の設定によって、児童は、相互鑑賞や材料・用具を選択しながら交流していた。また、特徴の違う材料等を題材のねらいに合わせて準備することで、児童は材料の特徴を考えながら選択し、表現に集中して取り組んだ。

(2) B 学習過程の工夫

試す時間を十分に設定したことで、児童が着実に形や色に着目して表す様子が見られた。題材前半の試す時間の設定によって、題材後半では経験を生かしたり、友達の活動に目を向けたりして、安心して自分の作品に向き合う様子が見られた。

(3) C 教師の働き掛け

児童作品の表し方の工夫などを紹介することで、思いを伝え合うなど、児童同士が関わり合う様子が見られた。また、教師が児童一人一人の活動を見守ることによって、児童は、悩み、考え、自己決定することができていた。用具をうまく使えない児童に、どうしたい

かなど思いを聞き取りながら一緒に取り組むことで、用具を工夫して使い表すことができるようになった。発想・構想について支援が必要な児童には、教師が具体的な案を示すなど、児童の発想のきっかけとなるように働き掛けることで、長時間活動が停滞する児童は見られなくなった。

(4) **D 児童同士の交流**

教師が学習過程全体の中で、児童の思いや表したいことに合わせて交流できる環境を設定することで、自然と交流する様子が見られた。児童は、交流を通して、これまでとは違った見方・感じ方に気付き、材料や方法などを共有しながら、自分の作品に生かそうとしていた。また、様々な試作品や、制作中の仕上がりの相互鑑賞によっても、自然と友達と関わり合う様子が見られ、友達の表現の工夫を自然に取り入れたり、つくり、つくりかえ、つくる様子も見られた。

VI 研究の成果と課題

1 成果

(1) つくる喜びを味わう児童の育成

本研究では、題材のねらいに合わせて四つの視点を基に指導計画を立てながらつくる喜びを味わう児童の育成を目指し、2回の検証授業を行った。検証授業で見られた以下の姿から、児童は、自分の思いの実現を繰り返しながら、自分らしく活動をやり切ることができたと考える。

- 多様な材料を用意することにより、児童は、見付けた材料の性質や形や色、質感の違い、材料の面白さなどを基に、自分の表現したいものに合わせて材料を選択することができ、活動が活発化した。
- 試す時間を設定したことによって、十分に材料のよさや面白さを味わったり、材料・用具を自由に選択したりすることができた。また、何度でもつくりかえることができる安心感から、児童は、つくり、つくりかえ、つくる活動に集中し、活動の終わりを自分で納得して決めることができていた。
- 教師が、活動の様子を観察して児童のつまづきを把握し、児童への指導及び支援に生かすことによって、適切に用具を使いながら表せるようになっていたり、発想を広げて主体的に活動に取り組んだりしていた。
- 教師が、児童が形や色などの造形的な視点を働かせることができるように、造形的な視点を働かせている活動を意図的に紹介することによって、児童は自分とは違った見方・感じ方に気付いたり、紹介された活動の材料や表現の工夫に着目して友達と関わろうとしたりしていた。
- 材料置き場や児童の動線の工夫によって、児童同士の自然な関わり合いが生まれ、自分の経験を基に、造形的な視点に着目しながら友達と思いを伝え合ったりしていた。

このように、自分らしく表現しようとする学びの過程を繰り返す中で、児童は、資質・能力を発揮し、自分らしくつくる喜びを味わっていくと考える。また、四つの視点で整理した「手だて表」については、教師の経験や児童や学校の実態等に合わせて取捨選択しな

がら活用することで、より多くの学校において児童が思いの実現を繰り返す授業づくりに役立つことが期待できる。

(2) 共通研究テーマとの関連について

本研究では、これまで教師が行ってきた授業づくりの視点を、学習指導要領解説及び実態調査を踏まえて改めて言語化し、四つの視点に整理した。そして、手だて表を基に、教材等を柔軟に提供したり、学習進度に応じて言葉掛けを工夫したりすることで、児童が思いの実現に向けて表現方法を選択するなど自己の学習を調整しながら活動をやり切る姿が見られた。

また、児童が思いを実現したことにより、完成した作品を互いに見合うといった、思いを交流する場が自然に生まれた。このように、教師が、児童一人一人の思いの実現を繰り返す授業をすることにより、児童同士の関わり合いの質が高まり、児童主体の学びが一層充実したと考える。

2 課題

本研究の実態調査や検証授業を通して、自分の素直な発想・構想の価値に気付かず、自分らしい表現の方法を変えてしまう児童や、自分のつくっているものについて発表することに否定的な意識をもつ児童が一部いることが分かってきた。個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実していく上では、自分の表現のよさに気付ける児童を育成していくことが必要である。そのためには、教師自身が四つの視点に基づく手だてや見取りの方法を一層充実させていくとともに、児童が自分の表現を通じて自己との対話や他者との対話を促進できる指導の工夫が必要と考える。例えば、「この材料のこのような特徴を使って、自分の思いを伝えてみたい」「この作品の制作を通して自分がこのように変わった」などの自己の作品への思いや変化等を互いに伝え合ったり、「この作品の色使いには、このようなよさがある」などの造形的な見方・考え方を働かせ互いの思いを交流し合ったりするような学びについて、研究を深めていくことが重要と考える。

令和5年度 教育研究員名簿

小学校・図画工作

学 校 名	職 名	氏 名
武蔵野市立第四小学校	主任教諭	豊島 紗野花
小金井市立前原小学校	主任教諭	磯垣 梓
小平市立小平第九小学校	主任教諭	鳥海 良太
福生市立福生第六小学校	主任教諭	菅原 加奈子
奥多摩町立氷川小学校	主幹教諭	◎一場 俊輔

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
指導主事 勝呂 創太

令和5年度
教育研究員研究報告書
小学校・図画工作

令和6年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849